

F-25 現代社会における養の意味—養の守護性と欠損家庭の状況(郡山市の場合を例として)—  
郡山女大養政 ○関口富左 大方笑子

目的 関口の試論・養政学の体系構造において「養政学は人間守護の学」として論証している。この論証を帰納的方法を用いて、生活上の実態より、養の意味を問い、養政学における人間守護の中心要点を求めようとするものである。

方法 養の守護性と正常家庭と欠損家庭における、こどもの生活環境及び生活意識上より捉え、その比較のなかに特異性をもとめて養の意味とみようとするもので、本研究は実態の調査により主題に迫るものである。

郡山市内小学校児童 873名を対象とし、守護の意味内容と、ごくありかたの子どもの生活行為のなかに求め、この内容検討を試みる。

結果 正常家庭児童に比して欠損家庭児童は、精神的充足を求めることが高く、正常家庭の児童は物質的充足を求めている。これらによれば養の守護性の本質は物質的充足より精神的充足を優先することとなる。養の意味は精神的 content、すなわち、自己を中心とした家族との間に、より安定的精神状況を求めようとすることを一義的とし漸次物とのかわりに及ぶという意味内容と把握したが、正常家庭における物質優先と人間性の危機の内在も見され、養の意味と養政学の中心視点が抽出された。